

○花田 真樹

○学位 博士(国際情報通信学)

○教育研究業績

事項			年月	概要
教育上の能力に関する事項	教育方法の実践例	Web教材とソフトウェアを利用した授業	H20.4～現在	各講義において、習得すべき知識と技術を効率よく学ぶために、講義資料および講義内容を理解するためのソフトウェアをWebサーバに置き、講義資料で知識を学びながら実際にソフトウェアを作成・操作することにより理論や技術を効率よく身につけられる手法を実践してきている。
		Web教材と資格試験用問題を利用した授業	H20.4～現在	各講義において、習得すべき知識と技術を効率よく学ぶために、講義内容の理解度を確認するための問題および講義資料をWebサーバに置き、講義資料で学んだ内容を、自ら該当の問題を解くことにより確認できるようにしている。出題している問題は資格試験問題をさらに練り直した問題であるため、理解度向上と資格試験合格の両方の効果が期待できる。
	作成した教科書、教材	「情報ネットワーク概論 - ネットワークとセキュリティの技術とその理論 -」ISBN:978-4-339-02484-5, コロナ社	H26.10	ネットワークとセキュリティを学ぶ大学生のための教科書を作成し、コロナ社より出版した。担当箇所は下記の通りである。2.2節, 2.4節, 5.1節, 6.2節～6.4節
		東京情報大学 UNIX論a, b	H24.4～現在	UNIX論a, UNIX論bの授業用に作成した資料である。Linux技術者のための資格であるLPIC取得に向け、参考書などを基に教材を作成し、Web上に公開し、授業外でも学習できるようにしている。
		東京情報大学 情報ネットワーク概論	H23.4～現在	情報ネットワーク概論の授業用に作成した資料である。情報ネットワーク概論(コロナ社)とITパスポート完全合格教本などを基に教材を作成し、Web上に公開し、授業外でも学習できるようにしている。また、要点のみを整理した資料を作成し、ネットワークに関する基礎知識を効率よく学習できるようにしている。
	職務上の実績に関する事項	その他	科学技術研究費 基盤研究C, “コンテンツ指向ネットワークにおけるサービス品質向上のためのストリーミング配信方式”, 課題番号: 16K00159(代表)(配分額:3年間150万円)	H28.4～H31.3
科学技術研究費 若手研究B, “サービス品質向上・保証を目的としたP2Pストリーミング配信技術に関する研究”, 課題番号: 25870696(代表)(配分額:2年間143万円)			H25.4～H27.3	概要:近年の映像配信サービス等の利用者増加に伴い、従来のファイル共有・配信のためのP2P技術に加えて、耐障害性やスケールビリティに優れたP2Pストリーミング配信技術の確立が不可欠となっている。インターネットを介したストリーミング配信において、サービス品質保証・向上を目的としたP2P(Peer-to-Peer)技術を確立する。

著書、学術論文等の名称		発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
著書	情報ネットワーク概論 - ネットワークとセキュリティの技術とその理論 -	共著	H26.10	ISBN: 978-4-339-02484-5, コロナ社	井関文一, 金光永煥, 金武完, 鈴木英男, 花田真樹, 吉澤康介概要: 本書では, ネットワークとセキュリティを学ぶ大学生のための教科書を作成し, 初級から上級まで対応できる内容となっている。また, 代表著者者となっている。担当箇所: 2.2節, 2.4節, 5.1節, 6.2節~6.4節 (全体の25%)
学術論文	Cross-Layer Design for Exposed Node Reduction in Ad Hoc WLANs	共著	H30.1	IEICE Transactions on Communication, Vol.E101-B, No.7, January 2018.「IF:0.826 <a href="https://www.ieice.org/cs/email_news/2017/2017-17e.txt">https://www.ieice.org/cs/email_news/2017/2017-17e.txt</a> 」(2018年7月掲載予定, 2018年1月事前オンライン掲載)	Emilia Weyulu, Masaki Hanada, Hidehiro Kanemitsu, Eun-Chan Park, Moo Wan Kim,共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要: 本論文では, 無線LANを用いて構築されるアドホックネットワークにおいて, TCP/IPIにおける第2層のRTS/CTS方式のRTSのレンジを, 第3層で決定されるAODVで構築された次転送ノードに設定する手法を提案し, グリッドモデルとランダムウェイポイントモデルを用いて評価し, その有効性を評価している。*コレスポন্ディングオーサー
	P2P Streaming Method Based on Playback Deadline Using Linear Programming	共著	H30.3	RISP Journal of Signal Processing, Vol. 22, No. 2, pp.63-76, 2018.	Masaki Hanada and Hidehiro Kanemitsu,共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要: 本論文では, P2Pストリーミングを想定し, 線形計画法を用いて, ピースの再生時刻に間に間に合うためのピース選択手法とダウンロード速度算出手法を提案し, その有効性を評価している。
	Available Bandwidth Estimation Method Using End-to-End Delay Increase Rate	共著	H30.3	RISP Journal of Signal Processing, Vol. 22, No. 2, pp.47-62, 2018.	Masaki Hanada and Hidehiro Kanemitsu,共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要: 本論文では, 可用帯域予測を行う手法を, 端末間の遅延時間から予測手法を提案している。評価では, 様々なクロスストラヒックが注入されるネットワークを想定したシミュレーションを行い, その有効性を評価している。
	MPR Selection and Routing Algorithms Based on Link Disconnection Prediction in OLSR	共著	H30.3	Proceedings of 2018 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2018), pp. 303-306	Masaki Hanada, Wataru Nagata, Hidehiro Kanemitsu and Hideo Suzuki, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要: 本論文では, アドホックネットワークにおいて, 制御メッセージの転送ノードであるMPRノードの移動によるリンク切断を予測し, 冗長化させる方式とリンク切断が予測されたリンクを迂回する経路制御方式の2つを提案し, 評価している。
	In-Network Caching Strategy Considering Popularity and Playback Sequence for VoD Streaming over CCN	共著	H30.3	Proceedings of 2018 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2018), pp. 307-310	Akira Toyozaki, Masaki Hanada and Hidehiro Kanemitsu,共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要: コンテンツ指向ネットワークにおけるストリーミング配信を行う際のキャッシング方式を提案している。コンテンツファイルの先頭に近いデータほどユーザに近いルータにキャッシング方式に, 最新性と参照回数を加えて方式を提案している。評価として, 階層型のネットワークを想定し, その有効性を評価している。*コレスポন্ディングオーサー
On the Optimal Number of Computational Resources in MapReduce	共著	H30.3	Proceedings of 2018 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2018), pp.311-314	Hidehiro Kanemitsu and Masaki Hanada,共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要: 本論文では, MapReduceにおける処理モデルを構築し, 要求処理量から, 処理に必要な最適なコンピュータ資源を算出する手法を提案し, 有用な結果が得られている。	

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
Effective Feature Selection for Damaged Buildings Using Post-Earthquake Satellite Image with Machine Learning	共著	H30.3	Proceedings of 2018 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSF 2018), pp.415-318	Jonggeol Park, Masaki Hanada and Hidehiro Kanemitsu.共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本論文では、東日本震災後衛星画像において、被害のあった建物を機械学習を用いて抽出する方式を提案し、有用な結果が得られている.
Prior node selection for scheduling workflows in a heterogeneous system	共著	H29.11	Journal of Parallel and Distributed Computing (Elsevier JPDC), Vol. 109, pp. 155-177, 2017.[IF:1.93 <a href="http://www.scijournal.org/impact-factor-of-J-PARALLEL-DISTR-COM.shtml">http://www.scijournal.org/impact-factor-of-J-PARALLEL-DISTR-COM.shtml</a> ]	Hidehiro Kanemitsu, Masaki Hanada, and Hidenori Nakazato.共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本論文では、各ノードの性能が異なる大規模なネットワーク、かつ、タスクの実行時間やデータサイズと処理性能やネットワーク帯域に変化がある場合を想定し、ワークフロースケジューリングのための優先的ノード選択手法を提案し、その有効性を評価している.
Study on Noise Extraction and Correction of Time Series Satellite Profile Data Using Parallel Distributed System	共著	H29.11	RISP Journal of Signal Processing, Vol. 21, No. 6, pp. 281-289, 2017.	Jonggeol Park, Masaki Hanada, Hidehiro Kanemitsu and Eiji Nunohiro, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本論文では、画素中に含まれる雲の割合を示す指標であるWI値を提案している. 実験では、並列分散システム上での評価を行っており、従来の雲の割合を示す指標であるMOD35方式と比較して、有用な結果が得られている.
Optimizing RTS/CTS to Improve Throughput in Ad Hoc WLANs	共著	H29.9	Proceedings of the Federated Conference on Computer Science and Information Systems, Vol. 11, pp. 885-889, 2017.	Emilia Weyulu, Masaki Hanada and Moo Wan Kim,共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本論文では、無線LANアドホックネットワークにおいて、RTS/CTS方式のRTSのレンジをAODVで構築された転送ノードに合わせる手法を提案し、ノード移動を伴う場合と伴わない場合を想定し、その有効性を評価している.
On the Performance of a Clustering-based Task Scheduling in a Heterogeneous System	共著	H29.8	Advances in Science, Technology and Engineering Systems Journal(ASTES Journal), Vol. 2, No. 3, pp. 1540-1548, 2017.	Hidehiro Kanemitsu, Masaki Hanada, Emilia Ndilokelwa Weyulu, and Moo Wan Kim,共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本論文では、各ノードの性能が異なる大規模なネットワーク、かつ、タスクの実行時間やデータサイズと処理性能やネットワーク帯域に変化がある場合を想定したスケジューリング方式を提案している. 評価では、FFTを用いて、最適なタスク実行順序に関して評価している. *コレスポンディングオーサー
An In-Network Caching Strategy for Reducing Playback Interruption Time of On-Demand Streaming over CCN	共著	H29.7	RISP Journal of Signal Processing, Vol. 21, No. 4, pp. 141-144, 2017.	Takeshi Misu, Masaki Hanada, Hidehiro Kanemitsu and MooWan Kim,共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:コンテンツ指向ネットワークにおけるストリーミング配信を行う際のキャッシング方式を提案している. コンテンツファイルの先頭に近いデータほどユーザに近いルータにキャッシュ方式である. また、再生に間に合わないデータは、間に合うルータにキャッシュする. 評価として、階層型のネットワークを想定し、その有効性を評価している. *コレスポンディングオーサー
MPR Selection based on Prediction of Link Disconnection Caused by Node Mobility in OLSR Protocol	共著	H29.3	Proceedings of 2017 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSF 2017), pp. 461-464	Masaki Hanada, Kenta Mineo, Hidehiro Kanemitsu and Hideo Suzuki,共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本論文では、アドホックネットワークにおいて、制御メッセージの転送ノードであるMPRノードの移動によるリンク切断を予測し、冗長化させる方式を提案し、評価している.

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
In-Network Caching Strategy for Reducing Playback Interruption Time on On-demand Streaming over CCN	共著	H29.3	Proceedings of 2017 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2017), pp. 465-468	Takeshi Misu, Masaki Hanada, Hidehiro Kanemitsu and MooWan Kim,共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:コンテンツ指向ネットワークにおけるストリーミング配信を行う際のキャッシング方式を提案している. コンテンツファイルの先頭に近いデータほどユーザに近いルータにキャッシュ方式である. 評価として, 階層型のネットワークを想定し, その有効性を評価している. *コレスポンディングオーサー
Scheduling Workflows by Offloading Tasks in a Cloud System	共著	H29.3	Proceedings of 2017 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2017), pp.469-472	Hidehiro Kanemitsu and Masaki Hanada,共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本論文では, モバイル端末と接続されたクラウド環境を想定し, 先行関係のあるタスクに対し, モバイル端末あるいはクラウド環境のどちらで実行するかを判断するアルゴリズムを提案している. 判断基準は応答時間と消費電力の最小化としている. 評価では, 従来のスケジューリング方式と比較して有用な結果が得られている.
Study on noise extraction and correction of time series satellite profile data using parallel distributed system	共著	H29.3	Proceedings of 2017 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2017), pp.473-476	Jonggeol Park, Masaki Hanada, Hidehiro Kanemitsu and Eiji Nunohiro, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本論文では, 画素中に含まれる雲の割合を示す指標であるWI値を提案している. 評価では, 従来の雲の割合を示す指標であるMOD35方式と比較して, 有用な結果が得られている.
Ad Hoc WLAN Throughput Improvement by Reduction of RTS Range	共著	H29.2	Proceedings of the 19th International Conference on Advanced Communications Technology (IEEE ICACT 2017), 3A-03	Emilia Weyulu, Taro Iwabuchi, Misu Takeshi, Masaki Hanada, Moo Wan Kim, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本論文では, 無線LANを用いて構築されるアドホックネットワークにおいて, RTS/CTS方式のRTSのレンジをAODVで構築された転送ノードに合わせる手法を提案し, その有効性を評価している.
QoS Control Method for W-LAN Considering Throughput Achievement Radio	共著	H28.9	Proceedings of Southern Africa Telecommunication Networks and Applications Conference 2016 (SATNAC 2016) , pp. 56-57	Emilia Weyulu, Masaki Hanada and Moo Wan Kim,共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本研究では, アドホックネットワークにおいて所要の送信レートを達成するために, コンテンションウィンドウの自動調整するための制御方式を用いて, 様々なシミュレーション環境の条件下で評価している.
Clustering-based Task Scheduling in a Large Number of Heterogeneous Processors	共著	H28.2	IEEE Transactions on Parallel and Distributed Systems (TPDS), Vol. 27, No. 11, pp. 3144 - 3157 [IF:4.181 <a href="https://www.computer.org/web/tpds">https://www.computer.org/web/tpds</a> ]	Hidehiro Kanemitsu, Masaki Hanada and Hidenori Nakazato,共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本論文では, 各ノードの性能が異なる大規模なネットワーク, かつ, タスクの実行時間やデータサイズと処理性能やネットワーク帯域に変化がある場合を想定したスケジューリング方式を提案し, 評価している.
Analysis on Node Selection for Scheduling a DAG in a Heterogeneous System	共著	H28.2	Proceedings of 2016 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2016), pp.590-593	Hidehiro Kanemitsu and Masaki Hanada,共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本論文では, 各ノードの性能が異なり, かつ, タスクの実行時間やデータサイズと処理性能やネットワーク帯域に変化がある場合を想定したスケジューリング方式を提案し, 評価している.

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
P2P Streaming Method considering Processing Time of Hybrid P2P Server	共著	H28.2	Proceedings of 2016 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2016), pp.586-589	Masaki Hanada and Hidehiro Kanemitsu,共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本論文では、P2Pストリーミング環境において、既に提案されている再生デッドラインを考慮したピースのダウンロード方式に対して、P2Pサーバの処理遅延を考慮した場合に関して評価している。
QoS Control Method for W-LAN Ad Hoc Network with Automatic Contention Window Adjustment	共著	H28.2	Proceedings of the Eleventh International Conference on Digital Telecommunications (ICDT 2016), pp.13-18	Masaki Hanada, Moo Wan Kim, Kazuo Hajikano, Hidehiro Kanemitsu and Hee-Dong Kim,共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本研究では、アドホックネットワークにおいて、アドホックネットワークにおいて、高いスループットを達成させるために、CWの自動調整に関する厳密な定式化を行い、その式に基づいて自動調整する制御方式を提案し、評価している。
A Task Scheduling with Response Time Estimation for Efficient Processing in Heterogeneous Systems	共著	H27.2	Proceedings of 2015 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2015), pp.54-57	Hidehiro Kanemitsu, and Masaki Hanada,共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本論文では、タスクの実行時間やデータサイズと処理性能やネットワーク帯域に変化がある場合を想定し、スケジューリングの最悪時間に優先度を導入したスケジューリング方式を提案し、評価している。
P2P Streaming Method Considering Playback Deadline for Minimizing Playback Interruption Time	共著	H27.2	Proceedings of 2015 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2015), pp.62-65	Masaki Hanada, Yuuki Ishida and Hidehiro Kanemitsu, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本論文では、P2Pストリーミング環境において、既に提案されている再生デッドラインを考慮したピースのダウンロード方式に対して、バッファリング時間を設けた手法を提案し、評価している。バッファリング時間を設定することにより、再生途切れ時間の調整が可能となる。
A Measurement Tool Using Delay Information for End-to-End Available Bandwidth	共著	H27.2	Proceedings of 2015 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2015), pp.66-68	Yuuki Ishida, Masaki Hanada and Hidehiro Kanemitsu, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本研究では、既に提案している端末間の遅延時間から可用帯域予測を行う手法を実環境(Linux上)に実装し、評価している。これにより、シミュレーションだけでなく、実環境においても有用であることを確認した。*コレスポンディングオーサーに該当する。
Throughput Improvement by Adjusting RTS Transmission Range for W-LAN Ad Hoc Network	共著	H26.9	Proceedings of Federated Conference on Science and Information Systems, pp. 941-946, September 2014.	Aakihisa Matoba, Masaki Hanada, Hidehiro Kanemitsu, and Moo Wan Kim, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本論文では、アドホックネットワークにおいて、RTS/CTS方式のRTSのレンジを動的に変化させる通信手順の提案を行い、シミュレーション実験を通して、その有効性を評価している。
Asymmetric RTS/CTS for Exposed Node Reduction in IEEE802.11 Ad Hoc Networks	共著	H26.8	Journal of Computing Science and Engineering (JCSE), vol.8, no.2, pp.107-118, 2014. 「IF:0.259 <a href="http://www.koreascience.or.kr/journal/AboutJournal.jsp?kojic=E1EIK1">http://www.koreascience.or.kr/journal/AboutJournal.jsp?kojic=E1EIK1</a> 」	Aakihisa Matoba, Masaki Hanada, Hidehiro Kanemitsu, and Moo Wan Kim, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本論文では、無線LANを用いて構築されるアドホックネットワークにおいて、RTS/CTS方式のRTSのレンジを動的に変化させる通信手順の提案と動的に変化させた理論的な解析を行うとともに、シミュレーション実験を通して、その有効性を評価している。*コレスポンディングオーサー

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
A Resource Information Propagation Scheme for Job Execution in a Peer-to-Peer Network	共著	H26.3	Proceedings of 2014 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2014), pp.317-320, March 2014	Hidehiro Kanemitsu, Masaki Hanada, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本論文では、P2Pネットワーク環境において、ジョブ実行の情報を共有ことにより、ネットワーク全体におけるジョブ実行を短縮する手法を提案し、評価している。
P2P Streaming Method considering Playback Deadline and Piece Distribution	共著	H26.3	Proceedings of 2014 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2014), pp.321-324, March 2014	Masaki Hanada, Yuuki Ishida, Hidehiro Kanemitsu, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本論文では、P2Pストリーミング環境において、再生デッドラインを考慮したヒューリスティック手法を用いて、ピアがピースを効率よくダウンロードする手法を提案し、評価している。
Reducing the Number of Exposed Nodes in IEEE 802.11 Ad Hoc Network by Changing Transmission Rate of RTS	共著	H26.3	Proceedings of 2014 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2014), pp.325-328, March 2014	Akihisa Matoba, Masaki Hanada, Hidehiro Kanemitsu, Moo Wan Kim, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本論文では、無線LANを用いて構築されるアドホックネットワークにおいて、RTS/CTS方式のRTSのレンジを動的に変化させた方式に拡張し、簡易的なシミュレーション実験を通して、その有効性を評価している。
Available Bandwidth Estimation Method using Delay Information	共著	H26.3	Proceedings of 2014 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP 2014), pp.329-332, March 2014	Yuuki Ishida, Masaki Hanada, Hidehiro Kanemitsu, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本研究では、可用帯域予測を行う手法を端末間の遅延時間から予測手法を提案し、中程度のネットワークを想定したシミュレーションを用いて、評価している。*コレスポンディングオーサーに該当する。
Asymmetric RTS/CTS in Ad Hoc Wireless LAN	共著	H26.2	Proceedings of the 16th International Conference on Advanced Communications Technology (IEEE ICAC 2014), pp. 575-578, January 2014.	Akihisa Matoba, Masaki Hanada, Hojun MOON, Moo Wan Kim, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本論文では、無線LANを用いて構築されるアドホックネットワークにおいて、RTS/CTS方式のRTSのレンジを変化させた方式を提案し、簡易的なシミュレーション実験を通して、その有効性を評価している。
その他				
CCNIにおけるコンテンツへのアクセス時間/参照回数と再生順序を考慮したキャッシング方式	共著	H30.3	電子情報通信学会 総合大会 講演論文集, No.B-7-35(於東京電機大学)	豊崎朗, 花田真樹, 金光永煥, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本研究では、コンテンツ指向ネットワークにおけるストリーミング配信を行う際に、再生順序、最新性と参照回数を考慮したキャッシュ方式を提案し、その有効性を評価している。
OLSRプロトコルにおける予測リンク継続時間に基づくMPR選択手法と経路制御アルゴリズム	共著	H30.3	電子情報通信学会 総合大会 講演論文集, No.B-7-7(於東京電機大学)	長田航, 花田真樹, 金光永煥, 永井保夫, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本研究では、アドホックネットワークにおいて、MPRノードの移動によるリンク切断を予測し、冗長化させる方式とリンク切断が予測されたリンクを迂回する経路制御方式の2つを提案し、評価している。
CCNIにおけるコンテンツの人気度と再生順序を考慮したキャッシング方式	共著	H30.3	電子情報通信学会 技術研究報告, IN2017-129, pp. 237-242.	豊崎朗, 花田真樹, 金光永煥, 中里秀則, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。概要:本研究では、コンテンツ指向ネットワークにおけるストリーミング配信を行う際に、再生順序、最新性と参照回数を考慮したキャッシュ方式を提案し、多くのパラメータ条件下において、その有効性を評価している。

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
OLSRプロトコルにおけるリンク切断予測を用いたMPR選択と経路制御方式	共著	H30.3	電子情報通信学会 技術研究報告, IN2017-134, pp. 267-272.	長田航, 豊崎朗, 花田真樹, 金光永煥, 永井保夫, 本研究では, アドホックネットワークにおいて, MPRノードの移動によるリンク切断を予測し, 冗長化させる方式とリンク切断が予測されたリンクを迂回する経路制御方式の2つを提案し, パラメータ条件を増やして実験を行い, 評価している.
API呼び出しとそれに伴う経過時間とシステム負荷を用いたマルウェア検知手法	共著	H29.10	情報処理学会 コンピュータセキュリティシンポジウム 2017 (CSS2017), 3A1-1.	佐藤順子, 花田真樹, 面和成, 山口崇志, 鈴木英男, 布広永示, 折田彰, 関口竜也, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, APIとその呼び出しにかかった時間を特徴量としたマルウェア検知手法を提案し, API呼び出しのみと比較し, 評価している.
Optimized RTS/GTS for Exposed Node Reduction in IEEE 802.11 Ad Hoc WLANs	共著	H29.9	Proceedings of the 2017 IEICE Society Conference, No.BS-7-12(於東京都市大学)	Emilia N. Weyulu, Masaki Hanada, Moo Wan Kim, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, 無線LANアドホックネットワークにおいて, RTS/GTS方式のRTSのレンジをAODVで構築された転送ノードに合わせる手法を提案し, ノード移動を伴う場合と伴わない場合を想定し, その有効性を評価している.
アドホックネットワークにおける予測リンク継続時間とホップ数を考慮した経路制御方式	共著	H29.5	電子情報通信学会 技術研究報告, IN2017-6, pp. 25-30.	長田航, 三須剛史, 花田真樹, 金光永煥, 永井保夫, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, アドホックネットワークにおいて, ノード移動履歴からリンク切断時刻を予測し, 通信の計測時間が最も長くなる経路を構築する手法を提案・評価している.
CCNIにおけるストリーミング再生を考慮したキャッシング方式	共著	H29.3	電子情報通信学会 総合大会 講演論文集, No.B-7-22(於名城大学)	三須剛史, 花田真樹, 金 武完, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, コンテンツ指向ネットワークにおけるストリーミング配信を行う際のキャッシング方式を検討し, 階層型のネットワークを想定し, その有効性を評価している.
Performance Improvement of IEEE 802.11 RTS/GTS Scheme by Exposed Node Reduction	共著	H29.3	Proceedings of the 2017 IEICE Society Conference, No.No.BS-1-6(於名城大学)	Emilia N. Weyulu, Taro Iwabuchi, Takeshi Misu, Masaki Hanada, Moo Wan Kim, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, 無線LANを用いて構築されるアドホックネットワークにおいて, RTS/GTS方式のRTSのレンジをAODVで構築された転送ノードに合わせる手法を提案し, ランダム配置のネットワーク上で, その有効性を評価している.
CCNIにおけるストリーミング再生を考慮したキャッシング方式	共著	H29.2	電子情報通信学会 技術研究報告, CS2016-90, pp. 83-88.	三須剛史, 花田真樹, 金 武完, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, コンテンツ指向ネットワークにおけるストリーミング配信を行う際のキャッシング方式と再配置手法を検討し, 簡易的なネットワークを想定し, その有効性を評価している.
不正サイト検知のための自律分散型Webクローラと仮想化基盤の提案	共著	H28.12	電子情報通信学会 第34回サイバーワールド研究会 技術研究報告	河野義広, 三須剛史, 花田真樹, 布広永示, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, Web空間を分散してクローリングする方式と解析を行う環境の提案を行い, 簡易的なシステムを作成し, 評価している.
API呼び出しとシステム負荷を用いたマルウェアの特徴抽出に関する一検討	共著	H28.10	情報処理学会 コンピュータセキュリティシンポジウム 2016 (CSS2016), 2B1-3.	佐藤順子, 三須剛史, 花田真樹, 鈴木英男, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, APIとその呼び出しにかかった時間を特徴量を抽出し, 評価している.

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
セキュリティインシデント解析支援を目的とした悪性Webサイト発見システムの提案	共著	H28.10	情報処理学会 コンピュータセキュリティシンポジウム 2016 (CSS2016), 3B4-4.	三須剛史, 佐藤順子, 花田真樹, 山口崇志, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本研究では, 悪性サイトの収集, 判定, 解析, 可視化の4つの機能を有するセキュリティインシデント解析のためのシステムを提案し, 評価している.
ICNIにおけるストリーミング再生を考慮したキャッシング方式の提案	共著	H28.3	電子情報通信学会 総合大会 講演論文集, No.B-7-2(於九州大学)	三須剛史, 花田真樹, 金 武完, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本研究では, コンテンツ指向ネットワークにおけるストリーミング配信を行う際のキャッシング方式を検討し, 簡易的なネットワークを想定し, その有効性を評価している.
OLSRプロトコルにおける電波強度を考慮したMPR集合の冗長化手法	共著	H28.3	電子情報通信学会 総合大会 講演論文集, No.B-7-48(於九州大学)	福島遼平, 花田真樹, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本研究では, アドホックネットワーク用のルーティングプロトコルOLSRを改良し, 端末移動が激しい場合においても, 通信品質を劣化させない方式を提案し, 評価している.
CCNにおけるストリーミング再生を考慮したキャッシング方式	共著	H28.2	電子情報通信学会 技術研究報告, IN2015-120, pp.71-76.	三須剛史, 花田真樹, 金 武完, 金光永煥, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本研究では, コンテンツ指向ネットワークにおけるストリーミング配信を行う際のキャッシング方式を検討し, その有効性を評価している.
可用帯域推定を用いたTCP輻輳回避アルゴリズム	共著	H28.2	電子情報通信学会 技術研究報告, IN2015-111, pp.19-24.	石田裕貴, 花田真樹, 金光永煥, 金 武完, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本研究では, 可用帯域推定を用いることより, 通信環境が悪化した場合でも高スループットを実現できる手法を提案し, 評価している.
アドホックネットワークにおける接続安定性を考慮した経路制御方式	共著	H27.3	電子情報通信学会 総合大会 講演論文集, No.B-7-29(於立命館大学)	三須剛史, 花田真樹, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本研究では, アドホックネットワークにおいて, 端末の移動特性を利用し, 経路切断の起こりにくいルーティング方式を提案し, 評価している.
個別支援システムにおけるQ&A機能の開発	共著	H27.3	電子情報通信学会 総合大会 講演論文集, No.D-15-9(於立命館大学)	和田崇弘, 都築有希奈, 三須剛史, 石田裕貴, 花田真樹, 山口崇志, 永井保夫, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本研究では, 既に提案している個別支援システムに対し, 受講生が授業における課題や問題を主体的に解決するためのQ&A機能を追加・開発し, その有効性を評価している.
ベイジアンネットワークを用いた異常検知システム	共著	H27.3	電子情報通信学会 総合大会 講演論文集, No.D-19-5(於立命館大学)	石田裕貴, 稲永航平, 花田真樹, 山口崇志, 布広永示, 永井保夫, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本研究では, システムの状態の変化を用いてベイジアンネットワークを構築し, その構築されたベイジアンネットワークから異常判定式を提案し, その有効性を評価している.
遅延情報を用いたEnd-to-End可用帯域測定ツールの実装と評価	共著	H27.3	電子情報通信学会 技術研究報告, IN2014-163, 2015.	石田裕貴, 花田真樹, 金光永煥, 金武完, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要:本研究では, 既に提案している端末間の遅延時間から可用帯域予測を行う手法を実環境(Linux上)に実装し, 評価している. これにより, シミュレーションだけでなく, 実環境においても有用であることを確認した.



著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
アドホックネットワークにおけるコンテンツンションウィンドウ自動調整を用いたQoSメディアアクセス制御方式	共著	H26.3	電子情報通信学会 総合大会 講演論文集, No.B-7-83(於新潟大学)	坂内崇人, 笹川隆, 的場晃久, 花田真樹, 金光永煥, 金武完, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, アドホックネットワークにおいて, アドホックネットワークにおいて, 高いスループットを達成させるためにCWを自動調整する制御方式を提案し, 評価している.
End-to-End遅延情報を用いた可用帯域推定方式	共著	H26.3	電子情報通信学会 総合大会 講演論文集, No.B-7-57(於新潟大学)	石田裕貴, 花田真樹, 金光英煥, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, 可用帯域予測を行う手法を端末間の遅延時間から予測手法を提案し, 中程度のネットワークを想定したシミュレーションを用いて, 評価している.
タブレット型端末を用いた個別対応支援システム	共著	H26.3	電子情報通信学会 総合大会 講演論文集, No.D-15-8(於新潟大学)	齋藤泰斗, 花田真樹, 山口崇志, 永井保夫, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, 質問者の位置や質問内容等を可視化し, 教員やTAを学生に割り当てる手法を提案している. また, 操作性を考慮した画面を再設計し, 評価を行っている.
分割ファイル再生のデッドラインに基づくP2Pストリーミング配信方式	共著	H26.3	電子情報通信学会 技術研究報告, IN2014-64, 2014.	石田裕貴, 花田真樹, 金光永煥, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, P2Pストリーミング環境において, 再生デッドラインを考慮し, 線形計画法を用いて, ビアがピースを効率よくダウンロードするための帯域予測手法を提案し, 評価している.
End-to-End遅延時間の増加率を利用した可用帯域推定方式	共著	H26.1	電子情報通信学会 技術研究報告, IN2013-142, 2014.	石田裕貴, 花田真樹, 金光永煥, 共同研究につき本人担当部分抽出不可能. 概要: 本研究では, 可用帯域予測を行う手法を端末間の遅延時間から予測手法を提案し, 評価している.